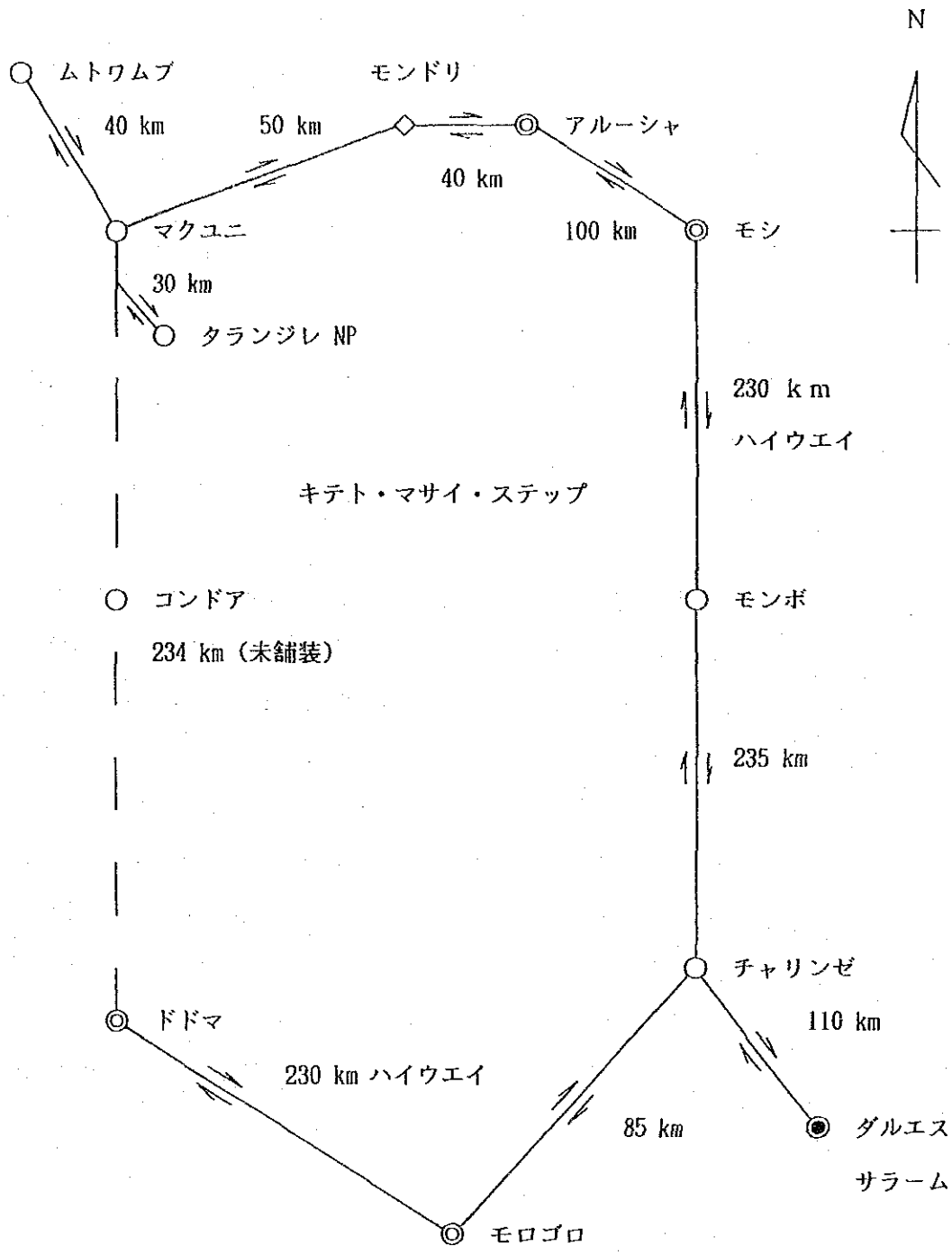
添付資料10　踏査日誌

1994年3月11日～3月30日

踏 査 行 程 略 図



（注）　ダルエスサラーム　～　モンドリ　　約　７１５ｋｍ

〃　　～　ドドマ　　約　４２５ｋｍ

タンザニア国アルーシャ州モンドリ地区

水資源開発計画調査（事前調査・S／W協議）踏査日誌

記録：ボーリング計画担当

〔１９９４年〕　　吉　川　信　市

3月１１日（金）・・・１（成田出発）

１１：３０　第２空港ビル南IFM.前集合，check in，通関，ＪＡＬ－４１１便

１４：００ Lv.（約１ｈ遅れ）

3月１１日　（成田～アムステルダム：12.5 Hr.）

１８：２０　アムステルダム・スキポール空港 Ar.　ホテル・オオクラ投宿。

3月１２日（土）・・・２

２０：００　空港 check in.　菊地団員と合流。　２２：２０　Lv.

3月１３日（日）・・・３

０４：４０　雲海上で日の出を見る。０８：５５　ダルエスサラーム空港 Ar.

１０：００　無事通関，ＪＩＣＡ事務所・阿部幸生氏及び舘林氏の出迎えあり

１０：３０　キリマンジャロ・ホテル到着。気温２８℃　海に面し蒸し暑い。

ホテルの通貨交換レート：５０７ Tsh.／1 USD

１ドル／１０５円・・・１ Tsh.／０．２円

１２：３０　ホテルでＥＯＪ、ＪＩＣＡ、派遣専門家と昼食会及び打合せ。

大使館・伊藤一等書記官、ＪＩＣＡ・三苫次長、伊藤富章氏　等

（計１２名）

１９：００　Mr. Edward Lowassa大臣の私宅で夕食に招ばれる。

〔Minister for Lands , Housing and Urban Development〕

：　土地・住宅・都市開発省

3月１４日（月）・・・４（移動日：アルーシャ行）

０９：００　キリマンジャロホテル Lv.　（ホテル：１泊朝飯付 100.USD）

１２：５５　チャリンゼから北上し、モンボ町で昼食。　ＥＬ：約４５０ｍ

ＤＡＲ～チャリンゼ：約１１０ｋｍ

チャリンゼ～モンボ：約２３５ｋｍ

モンボの食堂で、偶然にもＪＩＣＡ・平川所長の一行と会う。

１３：３０　モンボ出発、モンボ～モシ：約２３０ｋｍ　　ＥＬ：約８９０ｍ

１６：２０　モシ市に到着、給油。

１７；４０　アルーシャ市に到着、ニューアルーシャＨＴＬ投宿。お湯出る。

モシ～アルーシャ：約１００ｋｍ　　ＥＬ：約１４３０ｍ

（注）・本日の走行距離合計：約６７５ｋｍ　　（地図上のＥＬ：１４０８ｍ）

・標高：５万分１地図のモンドリ入口の国道交点付近に、ＢＭ（A21/32）の記載あり。ＥＬ：１３０２ｍとなっている。

3月15日（火）・・・5

０９：００　アルーシャ州開発庁長官クレメンス・ルタイワ氏を表敬訪問。

同州水道部部長ダンバル氏、ＪＩＣＡ・富田 Kozo 氏　同席。

面会者：Mr. Clemence Rutaihwa / Regional Development Director

Arusha Regional Development Directorate

[Ministry of Water, Energy, and Minerals]

１０：００　同上、ダンバル部長のアルーシャ水道部を表敬訪問。

入口の看板に「 IDARA YA MAJI」とある。イダラ：DEPT. の意。

面会者：Mr. E.J.Damball /(MSC.Engineering), Regional Water Engineer

Mr. L.S.Temba / Acting Regional Hydrogeologist, Scheme Ars.

Mr. Halili S.Halili / in charge of Zone-1 Drilling Section

Mr. George Benard Longer / Mechanic for Drilling Rig etc.

（注）・テンバ技師：既存のさく井資料（手書きの井戸台帳）を保有している。

・ハリリ技師：さく井技術および資材の価格に明るい。(Z-1：北の区域)

・ジョージ君：必要機材をリストアップ，自分でリグを整備する自信あり。

１３：３０　アルーシャ市の西方郊外、アルーシャ空港／滑走路脇の試掘井の地点を国道から遠望する。ＥＬ：約１４００ｍ（BM:1302m付近）

掘削深度：100m×8 in PVC　　ＳＷＬ：29.5m　　Q：41.7m³/h

水位降下：4.35m　　帯水層:34 m ～42 m (Sand and Gravel)

１４：００　タンザニア・ミリタリアカデミー前の坂を北に上がる。雨降る。

１４：２０　モンドリ・District Commissioner Office　表敬訪問。

（コミッショナーのコーン氏　不在）

面会者；Mr. S.T.Mlay / Economic planning Officer

１５：００　モンドリ山麓、コーヒー園のさく井（廃井）跡を見る。1936年頃７５m掘削した由であるが、経緯は未詳。　付近の地形を観察。

１６：３０　通称「山の下」と言う地点にある、湧水の引水の受け枡を見る。

引水量：約６０㎥／day　ＷＴ：１７℃　ＥＣ：１１５μM/cm

φ３inの埋設配管、上手に住家隣接し、環境として不潔感あり。

引水に薄い濁りあり。塩素滅菌の点滴した白いスケール付着す。

下手約１００mにコンクリート製丸型タンクあり。

他に２か所の湧水地点があるが、水利権としてモンドリ市が取水できる水源は、これ１カ所のみであると。　１家族の使用料金は２００ sh / 月、１家族の平均貯水量は、６０L/日しかないと。６０㎥／day から逆算すれば、受益家族数は60,000÷60＝1,000

１家平均６人として、６，０００人分である。モンドリ市の人口は、２４，０００人とのことであるが、これでは２５％しかまかなえない。当市中心部の人口を、１２，０００人と仮定しても、５０％でしかない。　また、１人当たりの使用量としては、１家：６人として、６０L/日÷６＝１０L/日となり、途上国の最低目標の半分でしかない。　以上は仮の試算であるが、当地区の水事情は、相当に逼迫していることは確かである。

１６：４０　デストリクト・オフイス／ Mr.ムライ　と別れる。

１７：００　アルーシアへの帰途、路上でコミッショナーのコーン氏と会い、明日の再訪問を約す。

１７：４０　ＨＴＬ帰着。

3月16日（水）・・・6

08：20　HTL出発。

08：40　「IDARA YA MAJI」（DEPT. OF WATER）ダンベル氏を訪問。

・場所：MERU POST OFFICE　の近く、角にエッソのスタンドあり。

09：10　モンドリ市の国道入口を北に入る。　路上で又コミッショナーに出会う、11時に戻る由（当方が30分遅れたため）。

10：30　モンドリ市のゲストハウスで休憩、ミルクテイーを頂く。

11：00　山に登り、モンドリ市の水源「山の下」の源泉を見に行く。付近には、バッファローが出没するとのことで銃を持った2人の警官が護衛に付く。森林の境界線：EL約1720m、此処から源泉まで約3km、　源泉の標高；EL約1800m、小さい堰堤に湧水を溜め、φ3inの配管で約7km下の「山の下」受水枡まで、重力式に引水している。

源泉のWT：17．5℃　　EC：120μM/cm

12：30　デストリクト・オフィスに帰着、コミッショナー等改めて挨拶。

面会者：Mr. Perseko V. Kone / District Commissioner, MONDULI

Mr. Faustine Q.M. Fissoo / District Executive Director, MONDULI DISTRICT COUNCIL

Mr. Blass G. Matemu / モンドリ市の水源管理人（案内した人）

13：00　ゲストハウスで現地風カレーの昼食接待うける。米は美味い。モンドリ市人口の約20％が回教徒で、アルーシャ市の中心部では約50％が回教徒、30％がキリスト教。　地方では、伝統的な部族宗教（マサイ族等）が多いと。

14：00　モンドリ山の裏手に回る。標高約1850m、モンドリジューと呼ばれるカルデラ、直径約1.5km のクレーター内の草原に出る。（タロセロ・Scarpの西方約7km地点）　此処はマサイ族の放牧地となっている。学校もあり、住民数は約1万人？と。

手掘り井戸が２か所あり、１か所に手押しポンプが設置してあるが（深度未確認）水が揚がらない。　水位が下ったか、故障か。住民が凹地の湧水（白濁）を汲んでいた。軍の給水タンクを積んだトラックが、雨でスリップして坂の途中で登れず、水を捨てていた。辛うじてすれ違ったが、当方の４ＷＤも下りに苦労した。

・クレーター内の湧水　ＷＴ：１９．５℃　　ＥＣ：０．３MS/cm

・タンク給水：２０Ｌ／１０ sh.（約２円・・マサイも買える由）

１５：００　山を下り、水道部「イダラヤマジ」立ち寄り。

１６：３０　ＨＴＬ帰着。（夜、ＪＩＣＡ・富田氏宅で久しぶりの日本食）

3月17日（木）・・・7

０８：３０　アルーシャ水道部「イダラヤマジ」立ち寄り。

０９：３０　さく井現場視察、市内Wilken Motors Car Wash Center 敷地内で米国・Ｓｃｈｒａｍｍ社製「Ｒｏｔａｄｒｉｌｌ」Ｔ６４ＨＢ－６７５型機（当管内３台あり）４６ｍ掘削中、目標深度５０ｍ、地質は粘土層に砂礫層２～３枚、泥水循環掘り中だが、地層状況により、トリコンビットでエヤー掘りをおこなう（ＤＴＨのハンマーボデイはストックが無い）のが常例。ビット径：97/8 in、ドリルロッド：4 ½in（120.7 ×3 ½IF ?）×5 ～6m　２０本、泥剤にはケニヤ産のクレイ・ベントナイト（イールドバリュー等の性状は不明だが、入手に困難はない模様）を使用していると。

搭載エヤーコンプレッサー：圧力　２５０ｐｓｉ（17.6kg/ ㎠）

〃　〃　：風量　４２５ｃｆｍ（12.0㎥/min）

深度３７ｍで帯水層に逢着（砂礫層をエヤー掘りすれば、地下水の排出状況がすぐ判る）、当市内地区では深度５０ｍで充分と。地層の判定に電気検層機は使われていない（持っていない）。

ジョンソンラウンドタイプスクリン：口径φ７½in×L５～6m×スロットサイズ約１㎜×６本、充填砂利：径約１０～１５㎜の花崗岩質角礫グラベルが約５㎥準備されていた。

面会者：さく井主任 Mr. Christopher Lugano / Driller in charge

１０：３０　市内の仮資材置場「LORUVANI MAJI YARD」見る。Schramm 同型機及び２００m用小型スピンドル式ボーリングマシンあり。パイプマストを継ぎ足しすれば、４½ DP ×200m可能とのこと。ただし整備が必要（パーツ入手の可否？）と思われる。　このマシンは

・「ＳＴＲＡＴＡＤＲＩＬＬ－３６」：English Drilling Equipment Co. Ltd.

１１：１０　ＨＴＬ帰着、打合せ。

１３：２０　水道部「イダラヤマジ」立ち寄り、モンドリに行く。

１４：１０　MONDULI DISTRICT COUNCILフイッソ氏の事務所訪問、雨で待機。

１６：００　アロダイ・プレーンの広大な草原を北に見ながら、西に進む。

１６：３０　マクユニ村（ドドマ市方面の分岐点）到着、給油。　此処は、モンドリ市より約５０ｋｍ（調査区域の西の端）、住民の殆どがマサイ族らしい。高架タンク、給水スタンドあり。バルブは施錠されているが、時間給水している模様。　ＥＬ：約１１５０ｍ

１６：５０　ムトワムブ（MTO WA MBU）行きの砂利道の途中から左のブッシュの中を約１．５ｋｍ入った地区一帯に水源井４本あり、内１本はＮＯ．４井（台帖コードNo. AR/10/52）：掘削深度９１．９１ｍ、CSG 口径φ6in、スリット型ストレーナー、　水質：飲める水、揚水量：１０００GPM（3.8 ㎥/min：5,472 ㎥/day・・当時？）揚水機：Ｖベルト掛け２２ｋｗエンジン駆動「MONOLIFT」ポンプ（ MONO PUMPS LTD. MENCA DIVISION , ENGLAND 製 ）さく井機：米国ラストン・バシュロス社製ケーブルツールス・パーカッションＲｉｇで掘削した由。

１７：００　帰途につく、モンドリのスタッフと国道の交差点で別れる。

１８：２０　ＨＴＬ帰着、　熱いシャワーが出るまで時間がかかる。

２０：００　「イダラヤマジ」のスタッフを夕食招待慰労（インド料理店）。

注）　MTO WA MBU：蚊のいる川の意

3月１８日（金）・・・8

０８：３０　水道部「イダラヤマジ」でさく井に必要な機材について打合せ。シュラムのＲｉｇ３台の使用を想定する。

１４：４０　ＨＴＬに戻る（当地の役所／オフィスは１５時半で閉まる）。

１９：００　当地の協力隊員４名と夕食、情報交換（インパラ・ホテル）。

3月１９日（土）・・・9

０９：３０　ＨＴＬ　check out　(65 USD×5 泊)．

１０：３０　TARANGIRE NATIONAL PARK（マクユニ南西約３０ｋｍ）に向う。

１１：４０　パーク入口到着（ＨＴＬ～１０５ｋｍ）、　ＥＬ：１０８０ｍ、気温２５℃、キャンプ式テントや円形バンガロー数棟が、眺望の良い高台（スカープの断崖か？）に建てられ、眼下に広がるサバンナのあちこちに野性動物が見える。ソーラー温湯機シャワー、水洗トイレ等が整い、プールもあって、休暇・保養に最適。

3月２０日（日）・・・１０

０８：３０　ロッジ　check out．サファリー・ガイド１名を伴い野性動物を見にゆく。猿、鹿類、キリン、象が多い。ライオン１頭を見る。

１０：００　低地の冠水した道路を避けて泥にぬかり、脱出に２Hrかかる。雨季には４ＷＤも油断禁物、スコップ、ワイヤロープ常備必要。この周辺にはライオンの足跡が一杯あり、少々不安を感じた。

１３：００　ロッジに戻り，泥洗い、昼食。　１４：３０　出発。

１６：２０　ムトワムブ（MTO WA MBU）到着。　マンヤラ NAT.PARK 入口の渓流を見る。　気温：３１．０℃　ＥＬ：１０８０ｍ
茶褐色水・・・ＷＴ：２２．５℃　ＥＣ：０．３３５μＳ／㎝
橋の下に、川の水位を測定するメートル尺が取り付けてある。
（マクユニ～ムトワムブ：約４０ｋｍ）

１８：４０　インパラ・ホテル到着、check in．

3月２１日（月）・・・１１

０８：００　アルーシャ州開発庁長官　Mr．クレメンス　ルタイワ氏を訪問。
（Mr．ダンバル氏、　ＪＩＣＡ・阿部氏同席）
Ｓ／Ｗ、Ｍ／Ｍ　のドラフトについて協議する。

０９：００　水道部「イダラヤマジ」で、同上詳細の打合。

１０：１０　西方８０ｋｍのモシ市に向かう。

１１：１０　キリマンジャロ水道部（モシ市）、キギンギ部長を訪問。

・シュラムのＲｉｇ「ロタドリル」Ｔ９８５Ｈ－６６１機をみる。１９７３年頃の製作、深度２００ｍ掘削用、トラック足廻り等、大整備が必要。　エヤーコンプレッサー２台搭載、マッドポンプ（ガードナーデンバー：８in×８ｓｔｒ）は、別のサイトに有るが、雨季のためアクセス悪く見に行けない。

・　TONEのＴＢＭ－７０／ＮＡＳ－４Ｂ（スピンドル型トラック搭載リグ・・１９７７頃のＪＩＣＡ／イリゲーションＰＪに使用）老朽化しており、整備しても使用出来るかどうか、疑問。

面会者：Mr. A.K.Kigingi / R.ENG,GIET, Regional Water Engineer

Mr. Alex Mwikola / Driller in charge RIG-37

１３：４０　モシ市出発。

１４：００　さく井現場Ｌｏｃ．ＬＡＭＢＯ（プライベートの農場）立ち寄り口径φ６½inで深度１２０ｍ掘削（Mar.9 ～Mar.20：12日間）、１05/8 inでリーミング中、９４ｍ～玄武岩、ＳＷＬ：７２ｍ、トリコンビットのエヤー掘り、口径φ8in. PVC / CSG 搬入中。オペレーター：１人　、ドリラー：３人

面会者：Mr. Mathias Porelesa / Chief Driller

１６：００　アルーシャ市、水道部「イダラヤマジ」事務所に戻る。

１６：５０　ＨＴＬ帰着。

１９：３０　アルーシャ州開発庁・クレメンス　ルタイワ長官のオフイスで、Ｓ／Ｗ，Ｍ／Ｍの調印、無事に終わる。

２０：００　インパラ・ホテルにて、調印関係者一同と会食（計１４名）。

面会者：Mr Paul A.M.Chikira / Regional Planning Officer (Econ.Planning) Regional Development Directorate , ARUSHA

Mr. A.W.Mlay / District Officer , MONDULI

（報道関係）Mr. Grayson L.M.Mndeme / Regional Information Officer , Ministry of Information & Broadcasting,TAN.Information Services-TIS

3月22日（火）・・・12〔移動日：アルーシャ⇨ダルエスサラーム〕

09：00　HTL出発。

10：00　水道部「イダラヤマジ」ダンバル氏の事務所立寄り、資料入手。

11：50　モシ市のセンター通過。

14：00～15：00　モンボで昼食。

17：30～18：00　チャリンゼで休憩・軽食（JICA専門家と会う）

19：50　ダルエスサラーム・キリマンジャロホテル帰着。

★ホテル側のミスで部屋なし。マネージャに交渉し、1部屋だけ取れる。

3月23日（水）・・・13

09：00　JICA事務所（三苫次長）に状況報告。

10：00　日本大使館表敬（花谷参事官ほか）、報告。

10：50　タ国・大蔵省を表敬訪問。

面会者：Mr. M.T.Kibwna / Commissioner

Mrs.Philipina Mausa / Desk Officer for JAPAN

Mr. A.Mcharo / Water Master Plan (UNDPのコンタクト先？)

11：20　タ国・大統領府（President's Office）を表敬訪問。

面会者：Mr. Herbert E.Mrango/ Assistant Director,Planning Commission

Mr. E.E.Mshanga / Assistant Director, Planning Commission

12：00　金龍中華料理店で昼食。

14：10　水・エネルギー・鉱物資源省を表敬訪問（Dr.B.E.Moshi不在）

〔Ministry of Water, Energy and Minerals〕

面会者：Mr. William E.Uronu/B.SC(Eng),PGD.R.Eng(Civil),Ass-Commissr.

Mr. Mrunge A. A. Macha / Engr.Specialist in Hydraulics and -

Mr. Lupimo S. N. / Ag. C W A　　- Water Resources

15：10　UNDP（UNITED NATIONS DEVELOPMENT PROGRAMME）表敬訪問。

面会者：Mr. Tor Benjaminsen / Programme Officer for Environment

Mr. D.N.Shirima / Head, WMPCU and National Project Director

Ms. Nymisaeli K. Palangyo / Programme Assistant,Programme-4

19：00　JICA・平川所長宅で夕食パーテイ，ロワサ大臣夫妻外多数。

3月24日（木）・・・14〔移動日：ドドマ行き　徳田／吉川〕

09：50　HTL check out、丸尾団長／菊地氏は離TAN 、ETH に向かう。

10：00　水エネルギー鉱物資源省／マーチャ技師を再訪問（資料入手）。

11：30　DAR出発。

13：00　チャリンゼ町で昼食（DAR ～Chalinze : 109 km）

14：30　モロゴロ町で給油（Chalinze～Morogoro: 86 km）

16：50　ドドマ市に到着　（Morogoro～Dodoma : 230 Km）　計425km

17：00　ドドマホテル投宿。　気温：25℃、EL：約1200m

・タンザン鉄道ドドマ駅前、21時半～02時半：ホテルのデスコの騒音で（音量が大きすぎる）、寝られない。

3月25日（金）・・・15

01：30　アルーシャ水道部 Mr. テンバ／Mr. ジョージ　到着。

・昨日9時半頃バスで出発したが、雨季のため道路がぬかるみ、乗客40人がバスを押しながら、やっとの思いでたどり着いたと。（アルーシャ～ドドマ：324km、乾季は通常6～7h行程、バス料金：3100 sh ）

08：30　National Bank Commerceで換金（Rate:500.55 sh / 100 USD）

・BANKのことを、スワヒリ語で「 BENKI」という。

09：0.0　水エネルギー鉱物資源省（HYDROGEOLOGY SECTION）表敬訪問。

面会者：Mr. Mwanggimba E.H. / Senior Principal Geologist, Head of Hydrogeology Section

・ホンボロ・BASIN のマクタポラ断層及びムレム断層沿いのフラクチャー・ゾーン一帯に多数の井戸が開発されてきた。　基盤岩は花崗岩、掘削深度50～215m、揚水量50～450㎥/h、彼ムワンジンバ氏が作成したという柱状対比図が壁に掲げある。訪問者名簿には、日本からの研究者の名も多く見られた。けだし、揚水量454㎥/h(10,896 ㎥/day）は、アフリカ最大の井戸であったと言っても過言ではない（1975年頃の掘削）。

１０：００　同上、ドリリング・セクション訪問。

面会者：Mr. Robert Mwakijambile / Chief of Head Drilling Section

・ここの、CHIEF DRILLING INSPECTORという小部屋に、タ国全土のさく井資料（台帳）が保管されている。

・DRILLING STORES には、さく井機材とパーツ類がラックに保管されているが、本部のメイン倉庫というわりには乱雑である。

・ＤＴＨハンマーボデイは見当らない。またパーツ等新規の補充もされていない模様。

・３３年前の英国製１２inケーシング、亜鉛引ワイヤラウンドスクリーン等が、野積みされたままである。

１１：３０　鉱物関係の部署で地質図など購入。

「WIZARA YA MAJI NISHATI NA MADINI JIOLOJIA NA MIGODI」

注）ミゴデ：区、マデニ：鉱物、ニシャテ：エネルギー、イザラ：省庁

１２：３０　このすぐ前に、地質／鉱物博物館あり，色々と説明してくれる。

面会者：Mr. Nakara S.E.Matemn / Geologist in charge of MUSEUM

１３：００　「NAM HOTEL」で昼食。

１６：００　ドドマ市郊外約１５ｋｍのマクタポラ水源地を見学に行く。

建物には「1955 DODOMA WATER SUPPLY」と大書してある。

井戸のポンプ小屋の壁に、さく井当時の記録が残っている。

・BH No.119/75　D 123.0 M　Y 454.　m³/Hr　S.W.L 29.42 M

・BH No.147/78　D 107.73M　Y 55.75 m³/Hr　S.W.L 29.15 M

・BH No. 26/79　D 117.4 M　Y 227.3 m³/Hr　S.W.L 26.19 M

これによれば，日量１千３百トン、５千トン、１万トン　と言う極めて優良な成績であり、先哲の偉業に頭の下がる思いがした。

・今まで、７８本掘削し、１２本が使用されている。

・１万トンの井戸は今も生きており、現在の水量は判らないが、

ＷＴ：２８．１℃　　ＥＣ：０．８９１μS/sec

１９：００　「NAM HOTEL」で夕食（さく井本部／支部スタッフ等と会食）。

２４：３０　ドドマホテルのデスコ鳴りやまず、耳栓をして辛うじて寝る。

3月26日（土）・・・16

09：00　HTL check out.（気温：27℃、EL：約1180m）
此のホテルは安い（最高で29.USD/1泊）が、滞在には不適。
ロッジ風で部屋数も多く、ゆったりしているが、列車の出入りやデスコがうるさい。お湯は出ず、いえばバケツで運んでくる。

09：45　HTL lv.　（　給油　デーゼル：205 sh / L）

12：10　モロゴロ市到着、アルーシャに帰るテンバー氏／ジョージ君のバス予約（バス代：3800 sh/1 人）、Mr.Tが銭をせびる！。

12：30　「ママレストラン」昼食（スパゲティが美味）、二人と別れる。

14：00　モロゴロ　Lv.

15：30　チャリンゼの手前で表土の開さく中、ラテライト・赤土層厚3m以上あるを見る。　（EL：約80～100m）

16：20　ダルエスサラーム帰着、キリマンジャロ・ホテル投宿。

3月27日（日）・・・17　〔久しぶりに休養、資料及び荷物の整理〕

3月28日（月）・・・18

09；00　JICA事務所訪問、平川所長、阿部氏に経過報告。

10：00　タンザニア銀行本店を訪問（JICA・ジャクソン氏の紹介）。
最近の夕国の「経済指標」資料を無償で入手する（市販無し）。

面会者：Mr. P.E.M.Noni / Manager, Economic Research and Policy Dept.
Directorate of Economics and Statistics, BANK OF TANZANIA

11：00　土地・住宅・都市開発省に依頼したモンドリ地区の地形図は、殆どアウトオブストックで、5万分1及び25万分1を各1枚づつ入手したのみ。空中写真も色剤等支給してもらえば印刷すると。

16：40　HTL check out.

17：10　空港 Ar.（ラウンジで休憩）

19：00　Lv. BA－066便

20：00　ナイロビ Ar.

21：00　〃　Lv.（機内待ち1Hr）

3月29日（火）・・・19

05：00　ロンドン・ヒースロー空港 Ar.（ DAR～約12 Hr.）

06：30　モントカームHTL，仮泊・休憩。（ Rate: 1£/ 175 円 ）

17：00　〃 Lv.

17：40　空港 Ar.（JAL・ラウンジで休憩）

20：20　〃　Lv.　JL－402便（機内持込品の検査極めて厳重）

3月30日（水）・・・20（帰国）

15：10　成田空港に帰着（ LONDON ～約11.5 Hr.）、気温11℃　晴れ。

☆　4月4日　JICA／海保課長に帰国報告（徳田、吉川）

「標語」　：　『 マジ　ニ　ウハイ 』　＝　水は命なり！

注）　MKOA ：　州、県

WILAYA ：　郡(MKOAの下の単位)

TARAFA ：　地区(WILAYA の下の単位)

KATA,MTAA ：区（TARAFAの下の単位）

－以　上－